

# 教科実践レポート

第1学年 保健体育

球技ゴール型「バスケットボール」

授業者：中西佑太・伊藤真実

## 《研究実践のポイント》

- ・ペアやグループ学習を通して、対話し思考を深める活動の設定
- ・課題解決に向けての振り返り

## 1. 単元計画

学習指導要領より、

本単元（ゴール型）の第1学年及び第2学年の学習においては、攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できるようにする。指導に際しては、ボール操作とボールを持たないときの動きに着目させたり、相手や味方の動きを捉えるために、周囲を見ながらプレイさせたりすることが大切である。

ということから、攻撃に焦点を絞り、「相手ディフェンスにマークされていない状態でシュートを打てる」力を付けさせたいと考えた。よって、単元ゴールと授業展開は以下のように設定した。

### 単元ゴール

『状況に合わせたシュートを打つことができる。』

### 授業展開

- 1：オリエンテーション・試しの試合
- 2～3：基本的なボール操作
- 4～7：チーム練習、ゴール前での攻防（2on1、2on2、3on2、3on3）
- 8～：試合（5on5）

ボールを持ったときの場所や、相手ディフェンスのいる位置、味方のいる位置などの状況に応じて、自分がシュートに行くのか、味方にパスを出すのか、などゴール型種目特有の動きを理解させ、さまざまな状況に合わせた判断ができるように授

業を展開した。

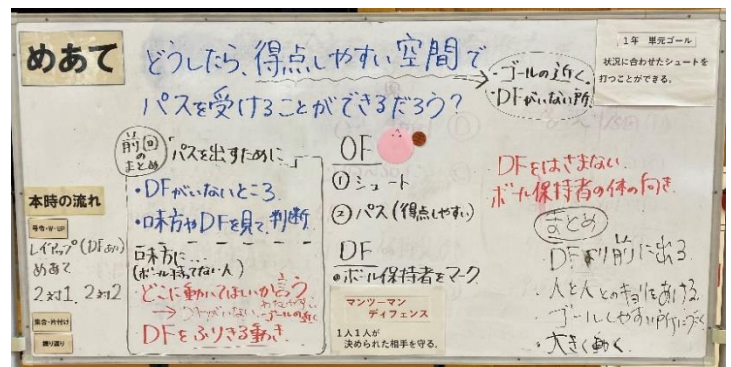
## 2. ペアやグループ学習を通して、対話し思考を深める活動の設定

### （1）キーワード①【得点しやすい空間】

4時間目からのゴール前での攻防については、「得点しやすい空間」をキーワードにし、「得点しやすい空間」とは何か考えさせた。その結果、『ゴールに近い場所』『ディフェンスがない所』という意見が出た。そこから、ディフェンスがない所にボールを出したり、ディフェンスがない所でボールを受けたりするためにはどう動いたらよいのだろう…と考えていった。

### 4、5時間目のめあて

- ④「どうしたら得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができるだろう。」
- ⑤「どうしたら得点しやすい空間でパスを受けることができるだろう。」



### （2）キーワード②【ボールを持ったときの動き】

試合で勝つためには得点を取らなければならない。得点を取るためにはシュートを打たないといけない。よって、ボールを持ったら…

#### ①まずシュート！

- ディフェンスにマークされていない状態で。
  - ・ゴール下から？レイアップシュート？

↓それが無理なら…

#### ②パス

- 得点しやすい空間へ出す／空間で受ける。

ということ全体を共有した。

状況に合わせてシュート…！

### (3) 自分やチームの動きを可視化

#### ●ICTの活用

タブレットで自チームの動きを撮影 → 視聴  
→ 成果と課題の共有 → 自チームの作戦を立てる → 試合

#### ●作戦ボードの活用

誰がどのように動いて攻撃をするのか、コマを動かして考えを共有



### 3. 課題解決に向けての振り返り

身体活動の時間を確保しつつ、まとめ・振り返り等の時間も確保するために、

〔各時間：挙手・発表でのまとめ・振り返り〕  
〔3～4時間ごと：ワークシートでの振り返り〕

という形で実施した。

#### 生徒の振り返りより

- ・シュートが打てそうな時にパスを選択して、パスが通らず相手に取られてしまったから、状況にあったプレーができるようにしたい。
- ・みんなが広がってボールに集まらないようにするという作戦をたてることができた。
- ・スペースができたときにレイアップシュートに行くこと、スペースがないときはパスやジャンプシュートを選択することが大切だと分かった。
- ・ゴール付近に相手がいれば離れた位置からジャンプシュートを打ち、ゴール付近に相手がいなければドリブルでボールを持ち運んでレイアップシュートを打つことができるようになった。

- ・シュートが打てないときには、パスを展開して状況を立て直してから攻撃をしていく必要があるということが分かりました。
- ・ボードを使って、場面を想定した作戦を立てることで、パスを出すかシュートを打つか判断することができるようになった。

### 4. 成果と課題

#### 成果

- ・4チーム編成をしたとき、各チームにバスケットボール部の生徒が1人以上いる状態で授業ができ、その生徒たちを中心にアドバイスし合うことができた。
- ・キーワードを共有することで、試合中、シュートが打てる状況でもパスを出そうとしてしまう生徒に対して、「シュート打てるよ！」と声をかける場面があった。
- ・作戦ボードで、自分たち(オフェンス)のコマを動かすことで、相手ディフェンスがどのように動くか、というイメージも持つことができ、「相手のディフェンスがこう動くだろうから、〇〇さんがこう動いて…」と話し合う場面が見られた。

#### 課題

- ・具体的な場面を明らかにし、その状況になったときどのような動きをすればよいのか考えさせてもよかった。  
例：)「ゴール下で、相手ディフェンスがいない状況でボールを持ったときは?」「スリーポイントライン辺りで、相手ディフェンスがいる状況でボールを持ったときは?」 など
- ・単元の最初の方に、「パスを出すことができるだろう」「パスを受けることができるだろう」という「パス」について取り扱ったため、「ボールを持ったら、まずはシュートを打つことを考える」という意識が薄くなったと感じた。

#### 今後は…

体育施設の環境整備 (モニター、WB等)